

第5回専門部会 議事録（人カテゴリー）

平成28年2月10日（水）18時30分～

登別市市民活動センター のぼりん 2階 市民活動室A

- ◆出席委員：齋藤 正史 委員
近井 一夫 委員
小幡 功 委員
垣内 登紀子 委員
安達 陽子 委員
伊奈 綾 委員
杉尾 直樹 委員
寺島 真一郎 委員
計8名

- ◆事務局：商工労政グループ宍戸商工労政・新エネルギー主幹
奥田主査
竹中担当員

- ◆議題：（1）各専門部会における具体的事業の協議

【要旨】

項目	発言者	内容
	事務局	ご多忙のところお集まり頂き、ありがとうございます。第5回専門部会を開催いたします。
	委員	沢山やらなければならない事はあるが、手始めとして短期的に取り組める取組をまずは考えていくとよい。
	委員	幌別ダム周辺を拠点として触れ合える拠点づくりは、内容を全て盛り込むことができればすばらしいスポットになる
	委員	全てに着手できるかはわからない。幌別ダム周辺も、亀田公園もあれもこれもと言っていると、どれにも着手することなく風化してしまう恐れもある。まずは場所を一つに絞っていくべきだ。
	委員	幌別ダム周辺には、以前はジンギスカンコーナーやボート、キャンプ施設などがあったが、今は残念ながら広場しか残っていない。
	委員	ダムの管轄として、行政の壁はどうだろうか。ハードルが高い中でも、規制を緩和する術はないだろうか。施設がなくなった経緯はわからない。どうやってできていたのか、調べてみればやり方がわかるかもしれない。
	委員	連泊数を増やすことが登別温泉の課題として挙げられている。これを解消するための目玉として、登別の地場産品を活用したバーベキュー施設を設けると良いのではないか。
	委員	冬の運営はどうするのだろうか。実際に運営するとなると、採算に乗っていないといけないなど、クリアしないとけない課題がある。課題がクリアできなければ事業として成立しない。夏場だけで採算がとれる、費用が回収できるかどうかまで検討していく必要がある。
	委員	冬は雪遊びをする家族が集まる場として取り上げるなど、人が集うことで経済活動が生まれると思う。

		<p>300万人の観光客は、私たちの街を巡っている訳ではなく、特定の地域にのみ訪れている状況である。これを一割でも地域を巡ってもらうための工夫をしなければならない。</p>
	委員	<p>まちに住んでいる方たちは、身の回りの資源を資源と思っていない。これが発信に繋がらない要因だろう。資源を改めて考えてみると沢山出てくるが、普通に生活している人たちが潜在的に資源として認識するという意識を持っていない。地域の人々を意識づける仕組みがなければ、観光客へのPRなどといった次の段階に繋がらない。</p>
	委員	<p>こうあればいいという思いは皆持っているが、行政が介入しない中で採算ベースに持っていくには、中小企業者が集まる何かが必要だろう。中小企業者が集まるには人が集まらないといけない。『あったらいい』を誰がやるのか。</p>
	委員	<p>この協議体に中小企業者等、市民、市と様々な立場の方々が参画しているのは、みんなで街を意識していかないとこの街が持続しないという意図があるからである。</p>
	委員	<p>まずは現実的なものに絞り込んで、展望として将来のことまで考えてみてもよいだろう。例えば福岡県久留米市では、行政・中小企業の垣根を越えた情報を扱う情報誌を発行している機関がある。このように、市民の立場からも、何があるとよいかという目線で意見を膨らませていくべきである。</p>
	委員	<p>個人旅行者であれば、我々が発信した情報によって各地に来てもらえるチャンスがあるだろう。</p> <p>市内に点在する地域資源を発信する手段が必要だということである。</p> <p>登別版の情報誌をつくってみてもよい。人をテーマにして、市内各地の『人』を紹介するのはどうだろうか。</p>
	委員	<p>久留米市の例では、観光協会が発行しているが、実際にはNPO団体が編集を行っている。登別市</p>

		<p>でも、人をテーマに各地域を特集する情報誌を作れば、面白い取り組みになるのでは。</p> <p>どうしても食べ物屋が中心になってしまいがちなので、一定の水準を設けて他の店舗も取り上げる。</p>
	委員	<p>登別市内では、登別商工会議所が中心となって地域の店舗をPRする取組「まちゼミ」を行っている。</p> <p>当初は幌別ダム近辺を中心とした集いの場を創出するという観点で話をしてきたが、方向性としては、まずは情報発信として「人」に着目して各地域の情報を一元化する情報誌の作成など、できることから始め、徐々に取り組みを広げていくという長期的な目線で取り組んでいく。なお、幌別ダムは管理主体が北海道企業局であり、行政的な壁が存在しているため、場合によっては取りかかりの段階で頓挫してしまう可能性もある。こうなるとはこの話し合いの意義を失ってしまうため、現段階では理想として掲げたままにし、実現方法を模索しながら、まずはできることから取りかかってみる。実現の方向性が見えたら、徐々に取りかかる。このような提言をしていく。</p>
	事務局	<p>本日はこれで終了します。お疲れ様でした。</p>